
ひとりぼっちのウー

神崎 優太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとりぼっちのウー

【Nコード】

N8701G

【作者名】

神崎 優太

【あらすじ】

地下鉄に住み着いたお化けのウーと、目の見えない少女ルルの物語です。

ウーは地下鉄に住みついたお化けの子供です。

いつも薄暗い地下鉄は、お化けの住みかにぴったり。だけど、ウーはお化けだから誰の目にも見えません。

「よし、今日も負けないぞー！」

ウーがホームを通りすぎる電車とおいかっこをすると、すごい音と風がお客さん達にふきつけます。

ビュー、ビュー、ビューー！

「勝った！ 今日僕勝ちだよ、みんな」

そういつても、誰一人として振り向いてはくれません。ひとりぼっちで、さみしい毎日です。

だけど、その日は違いました。

パチパチパチ……。

どこからか小さな拍手の音が聞こえます。

「すごい！ はやいねーお化けさん」

そこにはお母さんに連れられた、小さな女の子がいました。

「僕のことが見えるの？」

「ルルは、病気で目が見えないの」

女の子は、かなしそうにそう答えます。

「見えないけど、そのかわりにお化けさんのことはちゃんとわかるよ！」

ウーとルルは、その日から大の仲良しになりました。

ルルが地下鉄に乗って目のお医者さんに通う日は、必ずウーも一緒です。そして治療が終るといつものおいかけっこ。

「ヨイ、どん！」

ルルのかけ声と同時にウーが飛び出すと、風が地下鉄をかけぬけます。

ビュー、ビュー、ビューー！

「すごいwooちゃん！ 今日もwooちゃんが勝ったよ！！」

そんなある日のこと。いつものようにお母さんと地下鉄へやってきたルルは、なんだかうかない顔。ルルを元気づけようとwooはハリキります。

「よし、ルル。今日はいつもよりもっと速いよ！」

「違うのwooちゃん、今日は大事なお話が……」

だけどwooは、ルルの話をちっとも聞こうとしません。

「いいから見てて！ そうれっ！」

ゴォー、ゴォー、ゴォー……！

「キヤー！」

ものすごい風にあおられて、ルルの体はふき飛ばされてしまいました。

「女の子が線路に落ちたぞ！」

まわりの大人達はもう大さわぎ。お母さんは、ルルを助けようと必死に手を伸ばします。次の電車がすぐそこまでせまっていました。

「まって、ルル！ 今、助けるから！」

再び、ものすごい風がふきました。すると、ルルの体がふわりと浮き上がり、ホームの上へとゆっくり着地したのです。

大人達は目をパチクリ。

お母さんはルルをだきしめて喜びます。そして二人は、医務室の方へ歩いていきました。

次の日からルルは、なぜか地下鉄に来なくなりました。

「ルル、おこってるのかなあ」

wooは毎日さびしくてしかたありません。

そんなとき、地下鉄のホームでwooを呼ぶ声がしました。

「wooちゃん！ ルルが会いたがっているの！」

それは、ルルのお母さんでした。

だけど、お母さんはwooが目の前にいるのに気づかずに行っ

まいます。

「やっぱりだめだわ。本当にお化けなんているのかしら……」

ウーがこっそりお母さんの後についていくと、大きな病院にたどりつきました。窓から病室をのぞくと、そこにベッドで寝ているルルを見つめます。

「いや、ウーちゃんにお別れをいうまではぜったいに手術はいや！」

「お母さんを困らせないで。明日は目の手術を受けるのよ」

ルルは、泣き出してしまいました。

「だって、手術したらウーちゃんに会えなくなる……」

目が見えるようになったら、ウーのことがわからなくなる。やっ
と、ウーは気がつきました。

＜ルルはあの時、お別れを言いたかったんだ……＞

次の日の朝早く、ルルは物音に気づいて目をさました。窓の外に泣きながらハタをふるウーがいました。

『ルルごめん！ ルルがんばれ！』

ハタにはお化け文字で、そう書いてありました。ウーの姿は朝日に照らされて、だんだん消えていきます。それでもウーはハタをふりつづけました。

「ありがとう、ウーちゃん。さようなら」

「いつも、いつもいっしょだよ、ルル……」

それがウーの最後の言葉でした。

ルルの目は手術の後、元通り見えるようになりました。そして、それ以来、ウーとは会っていません。だけどルルは、大人になった今でも地下鉄に乗ると思うのです。

いつもウーといっしょだよと――。

(後書き)

小さなお子さん向けのお話ですが、大人にも楽しんでもらえたらうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8701g/>

ひとりぼっちのウー

2010年12月16日14時13分発行